

入選

人は見た目で判断しない

大分県 山香中学校 2年 佐藤 萌音

これは、今年の夏、私が買い物に行ったときの話である。

私は、買い物を終えてゲームセンターに行った。UFOキャッチャーをしようと思って台を選んでいた。すると、ある台に列ができていた。その台には、今大人気の人形があった。私は、その人形が大好きなので、ゲームをしようと思って、人形を取っている人たちを見ると、服装の乱れた高校生3人が、長くその台でゲームをしている様子だった。

私は、心がモヤモヤした。小さい子をおんぶしてきつそうに待っているお母さん、目をこすりながらもがんばって待っている女の子、何人もの人が並んでいる中、3人はケラケラ笑いながら人形を取っていた。一向に終わりそうになかったので、しかたなく私はその台をあきらめることにした。

数十分後、その台を見てみると、あの高校生たちが、人形をキャッチしたところだった。高校生たちはだれかを探している様子だった。彼らは、探していた相手を見つけたらしく、一人の女の子の方へ駆け寄っていった。

高校生たちがどうしても取りたかったのは、その女の子のためだった。高校生たちがゲームセンターに来る前から、その女の子はお母さんとその人形を取ろうとしていたらしい。でも人形は取れず、その親子は帰ろうとしていた。そのとき、女の子は泣いていたらしい。その親子の姿を、3人の高校生たちは目撃したのだ。彼らは、顔を見合わせ、台に近づいた。その親子が見守る中、親子なんか見向きもせず笑いながら、高校生たちはゲームを始めた。その笑いが、私にはふざけた顔に見えたのだ。数分後、親子はちがう台に行った。その後も、高校生たちは取れるまで必死に続けていた。やっと取れたとき、親子が帰ろうとしていた。高校生たちは女の子を見つけて、

「はい、どうぞ。」

と言って渡した。女の子のお母さんが、

「どうして？」

「泣いている姿を見て、ほっとけなかったんです。」

その高校生たちの言葉を聞いて、お母さんは泣いていた。

「泣いている子を見たら、助けるのはあたりまえです。」

そう言って、高校生たちは女の子の頭をなでていた。

私は、このような体験をして、いくら見た目がよくなかったって、こわくたって、また反対に目立たない人だって、心がそうとは限らない。心がとても温かく、やさしい人もいることを実感した。

彼らの行為を、小さな親切と言ってよいのかはよくわからないが、3人の心の中には、やさしく温かい小さな親切の芽があることはまちがいない、人はだれでも親切の芽を持っているのではないかと思った。

私も、私の心の中の小さな親切の芽を、勇気を出して育てていきたい。